

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	希望の丘蒲郡		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		～ 2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～ 2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○施設的环境 室内環境も人的環境もゆったりとしている。 好きなことを自分で選んでじっくり取り組むことができる。(こどもたちの『やりたい!』を叶えてあげられる環境)	職員を豊富に配置していることを始め、落ち着いて遊べるようなコーナーを作ったりおもちゃの貸し出しカードを用意したりすることで、何をして遊びたいかという子どもたちの意思が表出しやすくなるようにしている。このように個々の意思を尊重する中でもみんなが集まる時間を設定し、切り替えのタイミングを作っている。 放デイは、その日やることや取り組む時間を自分で考えて決められるよう相談して進めている。	現在の環境でも周囲の動きが気になり自分の遊びや活動に集中できない子がいるので、そのような子達でもじっくり遊べる環境を検討し設定していく。(例: パーテーション的な役割のものを段ボールで作成) また、カムダウンエリア(個室)の活用方法も検討する。
2	○施設周辺的环境 河川敷や神社、公園など、歩いて行くことができる距離に自然を感じることでできる環境が豊富にある。 歩いて行ける距離に、地域の人が通う商業施設がある。	五感を使って季節が楽しめるよう散歩に出かけている。出かけた先では子どもたちの発見を受け止め、共感し、周りの子どもへつなげている。また、自然物をお土産として持ち帰り、おうちの方へプレゼントしたり製作に使うなどして、散歩での楽しさがその後も継続するようにしている。	散歩を楽しむと同時に地域の方とのつながりも視野に入れていく。(散歩中の挨拶や散歩先での交流など) 放デイはプラスして、自立支援を目的とした買い物長期休暇に計画していく。本物のお金を使ったやり取りや自分が欲しいものを金額内で考えて購入する経験が持てるようにする。
3	○保護者からの相談 “いつでも立ち寄ってもらって大丈夫”という雰囲気作りをすると同時に受け入れられる体制を整えている。また、子どもたち一人ひとりの様子を全職員が把握した上で対応している。	話の内容などによっては落ち着いて話せる相談室をいつでも使用できるようにしている。相談して下さった内容は、その場の話で終わらないようにその後も継続してケアをし、信頼関係へとつながるようにしている。 相談内容は子どもへの理解や支援方法の検討にもつながる大切な情報なので、その気持ちを伝えることで『どのようなことでも話していい!』という保護者の方の安心感につなげている。	利用開始前にミーティングの時間を作り、前日の報告をすることで伝達忘れを防ぐようにする。 改まった場だからこそ話せることもあるので、面談週間などを設定し、話したいことや悩んでいることをモニタリング以外にもじっくり聞くことができる機会を作る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○見学に来たことのない方を中心に『自由』と言われてしまうところ。	・活動内容は決めているものの、決められた1日の流れがあるわけではないため自由に過ごしていると思われてしまう。 ・視覚支援が少ない為、専門的支援の取り組みが手薄に感じられてしまっている。	・希望の丘が大切にしている『遊びを通して発達を促す』という部分が伝わるように、設定している活動内容にはどのような目的があるのか(どのような発達につながるのか)、どのような思いが含まれているのかなどをもう少し分かりやすく提示していきたい。 ・視覚支援を全く行っていないわけではないので、見学での説明の仕方を見直していく。
2	○利用の時間や曜日によっては利用人数が少なく、実際の関わりを通したSSTが十分に行えていない。	・10人定員の多機能型事業所のため、時間帯によっては人数が少ないと感じる。 ・トラブルが少ないことはいいことではあるが、様々なシチュエーションで人間関係を学んでいくにはもう少し利用人数が平均的にいるといい。	・机上のSSTではなく実際の関わりを通してのSSTを引き続き大切にしていきたい。その為に現在よりもっと子ども同士関わりが持てる活動を設定することで、様々なシチュエーションを自然な形で作っていく。 ・併設施設である「むつみの丘」との交流を増やし、小集団の関わりが経験できるようにする。
3	○作業療法士などの専門職がない。	・訪問事業などで作業療法士の方が来てくれた時に、専門的な意見をもらってとても勉強になった。自分達だけでは気付けない視点がある。	・アドバイスをいただける機会があれば積極的に参加する。 ・利用児が通っているSTやOTでどのようなことをしているのかを聞かせてもらい、事業所でもできそうな内容を実践していく。また、疑問や質問がある場合に保護者を通して専門職の先生に聞いてもらう。